



## 100円や500円がどうして硬貨になったの

### 硬貨の方が長持ちし、しまいやすい

昭和20年代は、10円札や100円札がおもに使われていましたが、景気がよくなるにつれて、これらのお札が広く出回り、ひんぱんに使われるようになりました。そうになると、いたみもはげしく、すぐに新札ととりかえなければなりません。

そこで、長持ちして小銭入れにしまいやすい、100円硬貨にきりかえられていったのです。ちなみに、100円硬貨ができたのは、1957年（昭和32年）です。また、当時作られていた100円札は、今でも使うことができます。

### 自動販売機で利用しやすい

このほか、100円硬貨ができることによって、自動販売機ができ、買い物がしやすくなりました。街頭での飲み物などの販売機、駅の切符の販売機など、硬貨を使って利用するものとしては、今では、なくてはならないものになりました。

500円が硬貨になったのも100円玉のときと同じ理由ですが、100円玉5個よりしまいやすく、自動販売機で500円前後の買い物をするとき、利用しやすいことがあげられます。これは昭和52年に、硬貨として発行されました。

ちなみに、1996年（平成8年）の発行枚数は、100円硬貨が2億7000万枚、500円硬貨は1億7000万枚ですが、このほか、長野オリンピック記念硬貨として、500円硬貨が2000万枚追加発行されています。（監修・保岡 孝之）

